

初めてづくしの入社式

4月になりましたね！服部農園に新しく2人の新入社員が仲間入りしました。2人とも県立農業高等学校・作物専攻(米、麦、大豆)を卒業して、二十歳になったばかりのフレッシュさんです。

4月2日、大口町町民会館をお借りして、服部農園、始まって以来「初めて」の入社式をさせていただきました。

どうぞよろしくお祈いします

寺尾彩花さん
あだ名「オッチ」
読書好き
笑顔がかわいい
既にみんなの人気者

近藤雄一郎くん
あだ名「こんちゃん」
趣味・バイク、釣り
彼女募集中
少林寺やってみました

「入社式をやろう！」と言ってはみたものの
…。誰も入社式の経験がナイ(°Д°;)と、
いう事で手作り入社式をしましたよ！

まずは、起代子お母さんのお話から…。だ～れも知らない服部農園のはじまりのおはなし。

創業は60年前。ちょうどこの季節、4月でした。中学校を卒業したばかりの15歳の少年が、たった一人で始めた農業でした。その少年は小学校6年生の卒業式の日、父親を亡くし、年の離れた姉さん達はすでにお嫁に行っていました。「中学を出たら働こう」少年の決めた道は「農業」でした。少年が青年になって、26歳の時、7歳年下のカワイイお嫁さんを受けました。たった一人だった青年はもう一人ではなくなりました。若い夫婦は近所の人に頼んで土地を借りて、ビニールハウスを作りました。夫婦は茄子を作る事で2人の娘を育てました。子ども達を抱く夫婦の爪はいつも茄子のアクで真っ黒でした。下の娘が6年生の時、父さんになった青年は思い切って町で一番大きなトラクターを買いました。それが米農家・服部農園のはじまりの話。あの時の青年の目にはどんな風に今日の入社式が写ったのでしょうか。

家庭菜園はいかが？



写真①ナスの接木苗

年が明けて5月のゴールデンウィークあたりまで、米づくりの合間を縫って、農園では夏野菜の苗を作っています。築40年超えのハウスですが、まだまだ現役で活躍しています。

「接木苗」ってご存知ですか？(写真①)根っこの丈夫な「台木」とオイシイ実のなる「穂木」を胴体部分でちよん切って二本を一本にドッキングした苗の事です

畑作には「連作障害」が起きる事があり、同じ場所で同じ種(しゅ)をつくと同じ養分を欲しがって障害を起こす事があるのです。でも、小スペースの畑ではローテーションを組むことも難しい。そんな時には「接木苗」の出番ですよ。近所のおじいさんは「御嶽山の雪が少なくなったら植え時だ」と言っていました(なるほど～)。



写真③ 約10万鉢の苗を生産



写真② 苗の定植



写真④ 女性活躍(笑)

お知らせ

通信2月号でお知らせした「店舗」のお話しです。ご縁あって大口町内の大美軒さんをお借りすることになり、工事が始まっています。大美軒さんは代々お商売をされてきた町内の老舗中の老舗です。私も子どもの頃、母に連れられて買い物に行くのを楽しみにしていた思い出の場所です。お借りするにあたり、それを引き継いでこられた大美軒さんの想いと共に私達も一生懸命頑張ります！精米工場は4月より本稼働をいたします。そしてショップスペースは10月に開店です。女将は事務所か工場のどちらかにおりますので、お越しの際はお電話いただけると助かります。

編集日記

3月はとても賑やかに過ぎていきました。春休みの間、この春、大学生になる圭佑<く>と朋記<く>が、高校3年生の晏仁<く>がバイトに来てくれ、早くも来春の就職希望学生<く>が見学に訪れました。新入社員のオッチと近ちゃんのご両親も「息子(娘)がお世話になります」とご挨拶にいらしてくださいました。初めて社会に出る彼らにとって、最初に働く場所は「働くこと」や「仕事」への概念を育てる大切な場所。ご両親の心中を思うと胸が熱くなりました。どの子ども大切な我が子のおあずかりします。こちらこそ、不出来な我々ですがどうぞよろしくお祈いします。女将より

【私たちのミッション】 10年後、100年後、この町にこの景色を残したい

私たちは地域に根を張り、若い人材の育成と、次世代へつなぐ循環型農業に取り組んでいます。

服部農園有限会社 〒480-0125 愛知県丹羽郡大口町外坪 3-158

TEL:0587-81-6688 / FAX:0587-94-1020 / Facebook 毎日更新中/http://www.hattorinouen.com

このお便りは服部農園でお米を買って下さっている方、農地のご地主様を含め、ご縁のある方に発行しております。「次回からは不要だよ」という方はお手数ですが、メールかFAXにてお名前をご記入の上、ご一報願います。